



☀️	電気機械器具小売	7月度は前年比金額で118%。「こうち省エネ家電等購入応援キャンペーン」効果が大きい。省エネタイプエアコン・冷蔵庫119%、大画面テレビは102%だった。
	商店街(四万十市)	ホテルや飲食業は帰省客で賑わっている。毎年7月の「土曜夜市」は、市民祭の用意と営業で商店街は繁忙期となっているため、8月に開催を延期した。

☁️	食品団地	7月度の商況は、県内はやや低調、県外は不変。月末には観光関連の動きが出てきた。お土産用商品への期待が高まっている。
	テントシート	原材料の高騰を販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。イベント関連事業については、コロナ禍前に回復したように思う。
	木製品素材生産	7月も雨が少なかったこともあり、大きな変動はなく例年並みの出材量となっている状況。また、害虫による被害も少なかった。丸太価格については、樹種によって一部値崩れしているが、全体的に弱含みで推移している状況。今後の見通しもあまり期待はできない。
	建具	リフォーム直しなどの小さな仕事が多い。金物代が引き続き値上がりしている。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体では、販売量・販売金額・生産量ともに昨年同月比で少し下回っているが、持ち直しつつある。その中で、衛生用紙のティッシュ・トイレットペーパーが、販売量・販売金額ともに昨年同月比で上回っている。
	製紙(手すき和紙)	売上は前月より少し上がった。利益率はあまりないが、このまま良くなるか不安。原材料などの高騰・人件費の上昇で収益が上がらないのに負担ばかり増えて依然厳しい状況。
	印刷	先月に引き続き売上増加、操業度上昇と良い結果となった。7月度は県内、県外ともに需要は好調だった。特に県外に注力している企業は好調を継続している。
	コンクリート製品	対前年同月比77.8%。公共事業の発注が若干少ない状況である。
	刃物製造	当月は何とか前年並みの売上を出すことはできたが、値上げをした分販売数量は落ちている。また、最近の円高や株価の変動により、海外からの注文は若干減少していると思われる。インバウンドに期待している取引先からの注文も少し控えめになっている感もある。
	船舶製造	受注・売上ともに引き続き順調。
	珊瑚装飾品製造	7月度の取引額は前年同月比71%となり、3ヶ月連続で前年を下回った。
	青果卸売	入荷状況(前年同月比)について、野菜:数量93%・キロ単価101%、果実:数量97%・キロ単価105%。野菜・果実ともに入荷減。大きさに比べてキロ単価の上昇率が小さく、消費の最前線での若干の厳しさが考えられるが、飲食等の業務需要筋への引合いは昨年を上回っている様子。
生鮮魚介卸売	4月から連続して売上が減少している。とにかく気温が高く入荷が少ない。それでも暑い中漁師さんたちが頑張ってくれている。カツオは全国的に好調。	

☔️	各種小売(土佐市)	暑さで人が出ていない。商店街や小売店には厳しい状況が続いている。
	中古自動車小売	オークション価格が高騰しており、消費者の希望価格と展示車の支払総額が折り合わないことが多い。同様に注文をいただいても車種によっては流通量が少ないうえ、消費者の希望価格と仕入れ価格が合わない。販売面では厳しい状況。
	商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の95.3%(▲1,266台)、料金収入は前年の96.7%(▲303千円)。7月については、土日の日数が前年より2日少なく駐車場の利用台数は対前▲4.7%となった。第50回土曜夜市は、50回記念イベント等の開催や天候にも恵まれたことにより毎週商店街全体で賑わいがあった。
	旅行業	組合クーポン:前年同月対比56%、全旅クーポン総合計:前年同月対比83%。単月では売上は減少しているが、組合・全旅クーポンの総合計の売上は前年度よりプラスで推移している。令和6年8月より「どっぶり高知旅キャンペーン」ツアー販売が開始される予定となっている。
	IT事業	売上は前年比で増加した。定期的な案件に加えて追加発注の件数が増えているようだ。大型案件は好調時に比べればまだ少ないため、来月以降の受注につながるよう営業を強化する必要がある。また、最新技術や情報に関する教育や研修、勉強会を通じて、組合員全体のスキル向上を図る取組みも継続していきたい。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比191.36%となった。高知中央地区が246%、安芸地区が121.5%と大幅に増加した。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:105.4%、輸送回数:97.2%、実働率:50.4%。よさこい祭りが始まるのにタクシーがない。県外からの予約も多いがそれを受けることが出来ない。新しくドライバーになろうという人が少しずつ増加している反面、辞職者も多く人員増加に繋がらない。	

☔️	酒類製造	ほぼ前年並みで数ヶ月横ばい状態である。消費の回復は厳しい状況。輸出はやや上昇の兆しか。
	製材	県内建築需要は低下傾向にあるなか、県外企業の進出もあり厳しい状況が続いている。
	生コンクリート製造	7月度の全組合員の出荷量は、対前年比92.9%であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比87.0%で7月単月は若干減少しているが、4月からの累計は若干増加傾向にある。地域的には、東部・嶺北・中部地区が対前年比増加傾向を示しているが、高幡・幡多地区が減少傾向にある。また、高知市内を中心とした中央地区は、前月同様減少傾向は続いている。
	機械団地	売上高など各種指標に特に変化はみられず、団地内は概ね横ばいの業況となっている。夏場の工場内の暑さが年々厳しくなる中で、お茶等の給水配置やスポットクーラーの使用のほか、新たにファンベストを購入する支援を行うなど、就業環境の改善に取組む事業所がある。
	卸団地	昨年より売上は増加しているが、値上げによる増加である状況。物価高の影響で販売数量はあまり増えていない。景気回復は感じられない。原料、油、電気代、運送費など値上がりしているものの十分な転嫁が出来にくい状況である。
	ガソリンスタンド	7月の原油価格は、前半は円安の影響もあり上昇気味だった。後半はわずかに円高となり、下落気味となったが補助金のおかげでこの1年以上、市況には影響はない。しかし、ガソリンスタンドも人件費・水道・電気、その他の経費上昇で利益は圧迫されており、仕切り価格に関係なく値上げの必要があるかもしれない。補助金は7月末現在で、まだ30.8円/Lもあるが、直接ガソリンスタンドの利益に繋がるものではない。秋頃には、政府から出口戦略等について発表があるようなので、内容に注視したい。
	商店街(安芸市)	8/24(土)開催予定の商い甲子園には、高知県・愛媛県・三重県の3県から8校12チームがエントリーした。商い甲子園をはじめ、異業種・異分野・異世代の取組みを評価され、中小企業庁の「地域にかがやくわがまち商店街表彰2024」に選定された。7/23(火)に経済産業省にて表彰式が行われ、齋藤経済産業大臣から直々に表彰状を頂いた。
	クリーニング	業績の二極化が進んでいる。特徴・強みを伸ばしている企業は業績を向上させている。相対的には点数減が続き、苦戦している企業が目立つ。エネルギー・資材価格の上昇は続いており、収益面では明暗が分かれている。
	一般土木建築工事	令和6年7月分の県下の生コンクリート総出荷量は、前月比98.5%、前年同月比92.9%、前年同月累計比71.1%。そのうち、共同販売事業に係る出荷量は57914.30m ³ と全体の34.10%と低調。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、主に賃金アップの原資としてm ³ 当たり1,000円の値上げを5月契約分より実施。また、小型車搬送についても値上げ実施。値上げ分の積算単価反映は、9月も難しい状況。また、高知市の組合再生については進行中であるが、具体的な進展は未だ見えない状況。
	旅館・ホテル	7~8月の宿泊需要は強いが宴会部門はあまり振るわず、スタッフ不足により会場予約を制限する場合もある。秋の受注に期待している。
	飲食店	当月の売上高は前月・前々月に引き続き3ヶ月連続で前年同月を下回った。コロナ禍以前の売上比較は約8割~9割。県中心地から離れた東部や西部では特に状況が悪く廃業した事業所もある。前年度同月に比べ、光熱費や仕入れ価格は高騰し人件費も上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	一般貨物自動車運送	燃料価格は原油価格が下がったこと、為替介入等により当初の見通しに反して1円程度の値下げとなった。しかし、荷動きは思ったより鈍く、ドライバー不足などの問題も解決できていない状況で、組合員企業の経営は厳しい状況が続いている。